



日常の景色にある SDGsを見つけしてみる —その2

前回に続いて、亀岡の暮らしの中で
見つけた「持続可能な開発目標(SDGs)」
に関連する取り組みをご紹介します。
まず、SDGsには「貧困をなくそう」



▲横断歩道の白線に茶色の影を付けて立体的に見せている
(撮影 = 江見彩香)

をはじめとした17のゴールが設定
されています。それらの目標には、その
内容を具体的に示した「ターゲット」
と呼ばれる中間目標のようなものが設
定されています。

ゴール 3「すべての人に健康と福祉
を」には、「道路交通事故による死傷
者を半減させる」というターゲットが
設定されています。それでは、
交通事故を減らすためには、ど
うすれば良いでしょうか。例え
ば、最高速度を規制したり、歩
道を整備して車と分離したりす
るといった方法が考えられます
が、一風変わった方法が亀岡市
内で見られます。

千代川小学校の正門前にある
横断歩道が、まるで立体的な構
造物のように浮かび上がって見

えることをご存じでしょうか。これは
人間の目の錯覚を利用したもので、運
転手に車の速度を落としてもらう狙い
があります。

この事例のように、規制だけではな
く、「人間が思わず行動してしまうよ
うな工夫」も考えてみると、持続可能
なまちの実現に向けた取り組みの幅が
広がるはずです。

高木 超(たかぎ・こすも) 文章

- ▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)

江見 彩香(えみ・あやか) 写真

- ▶ 元ファインダー女子広報部
女子学生による亀岡のPR隊
“ファインダー女子広報部”
(2018-2019) として活動。
現在、プロのフォトグラファー
として奮闘中!

